

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	きぎょうくみあい げきだんなかま 企業組合 劇団仲間		団体ウェブサイトURL
			http://www.gekidan-nakama.com/
代表者職・氏名	代表理事 小田美江		
制作団体所在地	〒 164-0012	最寄り駅(バス停)	新中野駅
	東京都中野区本町4-26-5 Sビル202		
電話番号	03-4405-2453		
ふりがな 公演団体名	きぎょうくみあい げきだんなかま 企業組合 劇団仲間		団体ウェブサイトURL
			http://www.gekidan-nakama.com/
代表者職・氏名	代表理事 小田美江		
公演団体所在地	〒	最寄り駅(バス停)	
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	1953年 4月		
制作団体組織	役員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事 小田美江 専務理事 村井裕 理事 飛田晃治 三橋怜子 監査 池田舞 大和田遥奈		▽演技部劇団員 21名▽演出部劇団員 1名 ▽制作部劇団員 2名▽事務局員 1名 準劇団員は1年制以上の俳優養成機関の修了者を準劇団員として採用。演出部は1年間の研修期間を経て劇団員として採用。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	大堀 茜
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	三橋怜子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	gekidan.nakama@gol.com		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>昭和28年4月、俳優座養成所(2期生)卒業生が講師の中村俊一を中心にして劇団仲間を結成。 昭和44年に企業組合として法人化。 新劇公演、児童青少年演劇公演を全国に展開し今日に至る。 代表作 森は生きている/乞食と王子/モモと時間どろぼう</p> <p>1955年『三人の紳士』文化庁芸術祭奨励賞 1960年『村岡伊平伝』文化庁芸術祭奨励賞 1961年『ふりむくなペドロ』読売児童演劇賞 1985年『乞食と王子』『森は生きている』紀伊國屋演劇賞特別賞 1995年『モモと時間どろぼう』文化庁芸術祭賞 2001年『カモメに飛ぶことを教えた猫』東京都優秀児童演劇選定優秀賞 2003年『ふたりのイーダ』厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 『モモと時間どろぼう』厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 『青い図書カード』厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 2004年『モモと時間どろぼう』児童福祉文化賞（舞台芸術部門） 2007年『飛ぶ教室』厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財</p>	
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>平成29年5月 「小さい“つ”が消えた日」葛飾区立梅田小学校、千代田区立富士見小学校、練馬区立石神井西小学校、墨田区立隅田小学校、川崎市立大谷戸小学校 平成29年6月 所沢市立上新井小学校、桐朋学園小学校、横浜市立中沢小学校、墨田区立外手小学校、墨田区立第三寺島小学校他、年度内 「小さい“つ”が消えた日」小学校体育館公演35回 平成30年5月 「小さい“つ”が消えた日」墨田区立東吾嬬小学校 「給食番長」昭島市立拝島第二小学校 平成30年6月 「小さい“つ”が消えた日」小平第四小学校 他、年度内 「小さい“つ”が消えた日」小学校体育館公演13回、「給食番長」小学校体育館公演18回 令和元年 「小さい“つ”が消えた日」文化芸術による子供育成総合事業15回 他、年度内 「小さい“つ”が消えた日」小学校体育館公演5回、「給食番長」小学校体育館公演21回 令和2年 「小さい“つ”が消えた日」文化芸術による子供育成総合事業166回、「給食番長」小学校体育館公演8回 令和3年 「小さい“つ”が消えた日」文化芸術による子供育成総合事業11回子供のための文化芸術鑑賞・体験事業 8回 令和4年 「小さい“つ”が消えた日」文化芸術による子供育成推進事業19回他、年度内東日本国際大学附属昌平中学校高等学校1回、「給食番長」小学校体育館公演12回、「ガクモンの神様」小学校体育館公演4回 令和5年 「小さい“つ”が消えた日」舞台芸術等総合支援事業13回他、年度内「給食番長」小学校体育館公演32回、「ガクモンの神様」小学校体育館公演10回 令和6年1月 「わすれものの森」桐蔭学園小学校にて公演 令和6年5月 「わすれものの森」金沢市文化ホールにて市内小学生団体鑑賞5回金沢市教育委員会主催 令和6年6月 「わすれものの森」一関文化センター（主催）にて市内小学生団体鑑賞2回 令和6年10月11月 「わすれものの森」舞台芸術等総合支援事業7回公演予定</p>	
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>長崎県立虹の原特別支援学校（平成23年11月・平成25年10月）にて「カモメに飛ぶことを教えた猫」次代を担う子どもの文化芸術体験事業実施。 この公演は担当先生との打ち合わせで通常通りの公演を行いました。</p>	
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>有</p> <p>https://youtu.be/wVZ4lp83B-0?si=ijUrhJPTAYHc-aES</p> <p>ID: PW:</p>

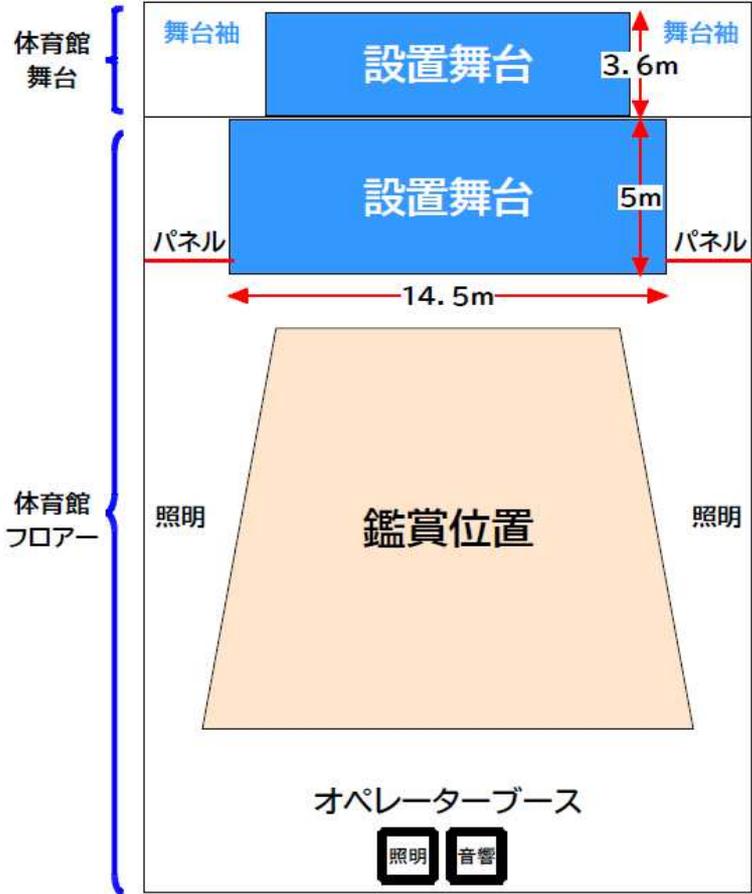
別添	あり			
公演・ワークショップの内容		【公演団体名 企業組合 劇団仲間 】		
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	舞台劇 わすれものの森			
企画のねらい	<p>誰もが体験したことがあるような日常から、ファンタジーの世界につながる物語を通して、子どもたちの冒険心や想像力を育みます。</p> <p>物語を通して子どもたちが、何気ない日々には隠れた小さな幸せ、ワクワク、ドキドキを見つけるきっかけになることを願い、創作に努めました。</p> <p>ひとりひとりが自分の生活について見つめなおし、楽しみを探しだすはじまりになるよう、この事業に取り組みます。</p> <p>そして、舞台への参加も「体験」のみに留まらず、一つの作品をみんなで作り上げるという達成感を得ることで、自分の可能性の広がりを発見する機会としていきます。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>絶対に見つけ出すんだ 忘れてしまった大切なものを…</p> <p>小学三年生のツトムは、たて笛をなくしてしまった。明日の音楽会でつかう大切な笛だ。どこを探しても見つからない。ツトムは、笛を探しに夜の学校にしのびこんだ。そこに現れたのは、黒い帽子とマントを身につけた、不思議な二人組のサントスとニブラ。</p> <p>わすれものを集めて「わすれものの森」へ持っていくことが彼らの仕事だという。ツトムは笛を取り戻すため、森へ連れて行ってくれるよう頼むのだが・・・。</p> <p>学校のシーンから始まるこの舞台は、子どもたちにとっては馴染みやすい物語です。</p> <p>また、人々の関係性の中で生れる様々な「愛」をテーマとし、スピーディーなストーリー展開により、現代の子どもたちの感覚に近い演劇表現が散りばめられています。</p> <p>友達と一緒に過ごす学校公演だからこそ、この作品の楽しさやメッセージが広がるのではと考え、選定いたしました。</p> <p>笑いあり、涙あり、心をたくさん動かす体験になることを願っています。</p> <p>※別添 『わすれものの森』現役教員の感想</p>			

児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>事前のワークショップ（1回）にて、 演劇要素を取り入れたコミュニケーションワークと、 公演へ一緒に出演するシーンの練習を行います。</p> <p>コミュニケーションワークでは、小学校低学年から楽しく取り組めるような、 身体の動きと声を使ったシンプルなゲームをいくつか行います。 演劇を体験するだけでなく、 人と人とのつながりへの、気づきや学びが得られるような内容です。</p> <p>公演参加は、俳優と一緒に舞台に立ち、 演じる気持ちや緊張感の高まりを経験するとともに、 物語を通して俳優との交流を深めていきます。 1つのシーンを皆で盛り上げる喜びと、 ひとりひとりに与えられた役のイメージやテーマを自分で考え、 表現する楽しさを体験します。</p> <p>公演当日、照明や音響も交えて舞台稽古を行い、本番前に安全を確認します。</p> <p>学校とは密な連絡を取り、より良い児童・生徒の共演、参加の形態がとれるよう努めます。</p>					
	児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人数目安	共演人数 30名	
				鑑賞人数目安	500名（状況により縮小の可能性あり）	
	本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>「わすれものの森」 原作：岡田 淳+浦川 良治（BL出版刊） 脚色・演出：松田 環 音楽：芳賀 一之 振付：川又 真理子</p> <p style="text-align: right;">公演時間 75 分</p>				
出演者	二瓶美江、前田承生、小林利也、鎌田睦大、小倉輝一、池田舞、大和田遥奈					
演目の芸術上の中核となる者（メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等）の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>二瓶美江 : 1978年演劇センター附属青山杉作記念俳優養成所卒 1978年劇団仲間入団 前田承生 : 1980年劇団青年座研究所卒 1982年劇団仲間入団 小林利也 : 1985年劇団青年座研究所卒 1985年劇団仲間入団</p>					
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	<p>出演者: 7 名 スタッフ: 8 名 合計: 15 名</p>		運搬		<p>積載量: 4 t と 2 t 車長: 9 m 6 m 台数: 計 2 台</p>	
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		有		前日仕込み所要時間	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～12時	13時30分～14時45分	0分	14時45分～16時45分	17時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月	7月	8月	9月
	19日	5日	5日	20日
	10月	11月	12月	1月
	20日	5日	0日	5日
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	79日

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

舞台図面



舞台写真

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 企業組合 劇団仲間 】

<p>ワークショップのねらい</p>	<p>演劇要素を取り入れたゲームを通じて、遊ぶことで声を出すことやコミュニケーションをとることの大切さを感じられるよう、内容を構成しています。</p> <p>目を見て思いを相手に伝え、ゲームをしながら身体を動かすことで感覚を刺激し、心身の解放を目指します。</p> <p>開かれた心と身体で、自ら発信をすると共に、相手を受け入れるという喜びを経験し、協調性を育みます。</p> <p>以上のゲームワークで生まれた感情は、劇作りにも大切な要素です。</p> <p>公演参加シーンの練習では、その感情と表現方法を活かし、段取りの練習だけでなく、想像力を広げていきます。</p> <p>場面の情景を想像したり、自由な発想を尊重しながら、登場人物の心の動きを子ども達と一緒に考えます。</p> <p>自主性や独立心を育てる手立てになることを願い、この事業に取り組みます。</p>		
<p>児童・生徒の参加可能人数</p>	<p>ワークショップ</p>	<p>参加人数目安</p>	<p>100名（1学年程度）</p>
<p>ワークショップ実施形態及び内容</p>	<p>① 準備運動として簡単なゲームをします。</p> <p>例)</p> <p>アイコンタクトを用いたゲーム （輪になって決められたお題を目を見て隣に伝えていきます。慣れてきたら同時に2方向に回します）</p> <p>相手との信頼関係を育むゲーム （2人組になり手のひらを触れない程度に合わせて片方が相手を誘導し、誘導される側は、相手に動きを委ねます。誘導する側はまわりとぶつからないようにします。慣れてきたら手と顔で同じことをします）</p> <p>チームプレイが大切なゲーム （2人組になり向かい合って縦方向と横方向で手をぶつけないように手拍子を打ちます。さらに参加者全員で音が重なるように、耳元に集中し、思いを一つにします）</p> <p>想像することを楽しむゲーム （与えられたお題を瞬間的に判断して体を動かします） etc</p> <p>② 劇中の参加シーンの練習をします。</p> <p>※劇中の参加人数については制限させていただく場合があります。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>特別支援学校での実施については、学校と綿密な連絡を取り、生徒、児童の生活環境を尊重したうえで、通常通りのワークショップ、公演をいたします。</p> <p>必要であれば台本を提供し、舞台上の進行を追えるように対応いたします。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 企業組合 劇団仲間】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>演劇を通じて子ども達の「自己表現とコミュニケーションの場所」を作り、「伝える力」「受け入れる力」の向上を目指します。</p> <p>子ども達の自主性や発想は最大限尊重し、人と違うことをおそれることの無いよう、自分の個性を発揮できる時間にします。</p> <p>また、人と協力していくことでさらに力を発揮できるという喜びや、誰かと繋がることの大切さを体験できる環境創りに努めます。</p> <p>演劇は総合芸術であり、たくさんの人が集まって一つのものを作っています。私たちもそれぞれが得意なことを持ち寄り、創作活動をしています。</p> <p>普段なかなか自分の気持ちを表現出来ない子どもでも、得意なことを生かして演劇を成功させるためのひとりになれるのです。</p> <p>その気づきを得るために、演技や歌、踊りの技術面だけではなく、衣裳や小道具を工夫することや、周囲への心づかいで、自分なりの表現が輝く瞬間があるということ伝えていきます。</p> <p>子どもたちの毎日が更に充実するきっかけとなるよう、「生の舞台芸術」にふれることの大切さ、おもしろさを体感する機会が必要だと考えています。</p> <p>そのために、体育館公演においても、照明、音響、舞台装置など、ホール公演と遜色のない舞台作りを目指しています。</p> <p>また、普段、公演実現が難しい地方の学校に質の高い舞台作品を提供し、芸術のすそ野を広げる一助としたいと思っています。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>学校の担当者とは、ワークショップ、本公演開催前に密に連絡を取ります。事前にワークショップ等の資料、作品の音楽CDをお送りします。</p> <p>事前に皆さんで、物語の雰囲気を感じていただく時間にご利用ください。</p> <p>公演当日は参加する子どもたちと、実際のステージで本番と同じ照明や音響を加えた舞台稽古を行い、安全を確認した上で開演を迎えます。</p> <p>開演時間、ワークショップの時間、参加人数などは出来る限り学校側の希望に添う努力をいたします。</p>
--	--

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 企業組合 劇団仲間 】
『わすれものの森』 現役教員の感想	<p>【つながりの大切さを子どもたちに】</p> <p>客席に着くと、舞台上に森の中を表現した、カラフルな色彩の舞台美術に目を惹かれ、早速、不思議な世界にいざなわれる。</p> <p>アップテンポの軽快な音楽で『わすれものの森』に住む不思議な住人たちのダンスで開演した。</p> <p>歌やダンスには、リズムカルなスピード感にスローモーションもあり、この作品がミュージカル仕立てであることが分かり</p> <p>「やっぱり、生で観る舞台はいいなあ」という私の心の声が聴こえてくる。</p> <p>「下校の時刻になりました。」という学校の日常的なチャイムが、子どもたちの心をつかんだのではないだろうか。</p> <p>現実をあらわすチャイムの最後の音程が微妙にずれていくことで、不思議な世界に吸い込まれていく演出は見事だ。</p> <p>現実を生きるツトムが、縦笛をわすれものしたことで、わすれもの集めを仕事にしている森の住人のサントスとニブラに出会う。</p> <p>サントスとニブラのコミカルな掛け合いに、会場の親子は笑いに包まれた。</p> <p>サントスが舞台上で帽子を忘れたとき、客席の女の子の「わすれている！」というつぶやきが響いた。</p> <p>森の世界の不気味な演出もあり、テンポ良く進んでいく展開に観客席から「怖いよ…」「ウケる！」といった子どもたちの声が聞こえ、心の動きが伝わり、劇場全体に響いてくる感動を実感した。</p> <p>鑑賞をしていて、この作品から「人とわすれもののつながり」と共に「人と人とのつながり」が、メッセージとして伝わってくる。</p> <p>特に子どもたちは想像力が豊かであり、物にもすぐに感情移入できるだろうし、ましてや「わすれもの」という身近な存在となると、必然と劇に引き込まれていくのであろう。</p> <p>始めから終わりまで、固唾を呑みながら舞台を見守る子どもたちの様子が印象的であった。</p> <p>エンディングでは、ツトムと大切なわすれものである縦笛を擬人化した少女が出会えて、サントスとニブラ、そして鳥と大臣と長老たち全てが、あたたかい歌と共につながってひとつとなり、感動的に幕を閉じた。</p> <p>「わすれものの森」では、あきらめずに相手を受け入れ、許すことで、お互いにつながり合うことができた。</p> <p>子どもたちには、あきらめないこと、そして人と人とのつながりを大切にして生きることを現実の中で生かしていけるようになることを願ってやまない。</p>	